

令和5年度 第6回

希望郷いわてモニターアンケート
食の安全安心及び食育に関する意識調査

【報告書】

令和6年3月

岩手県環境生活部県民くらしの安全課

I アンケート調査の概要

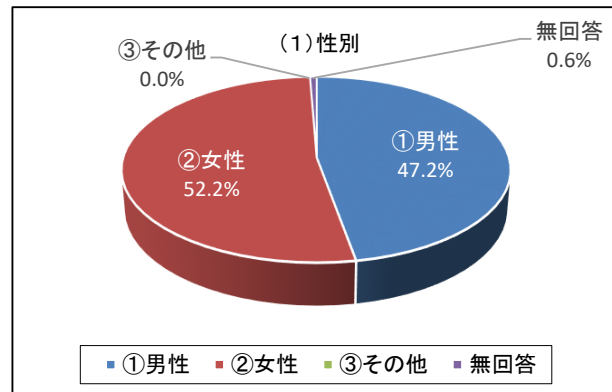
- 1 調査課題名
食の安全安心及び食育に関する意識調査
- 2 調査の目的
岩手県食の安全安心推進計画及び岩手県食育推進計画の推進を着実に図り、本県の食の安全安心の確保及び食育の推進につなげていくため、計画に基づく施策や取組の参考とするものである。
- 3 調査期間
令和6年1月24日（水）から2月7日（水）まで
- 4 調査方法
調査紙郵送及びインターネット
- 5 調査対象
令和4、5年度希望郷いわてモニター 196名
- 6 回答者数
159名
- 7 回答率
81.1%

II アンケート集計結果

問1 あなたの性別、年齢、職業、居住地についてお聞かせください。

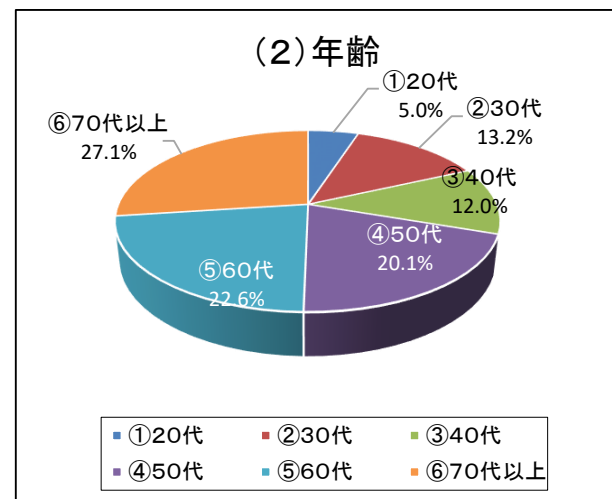
(1)性別

①男性	75
②女性	83
③その他	0
無回答	1
計	159



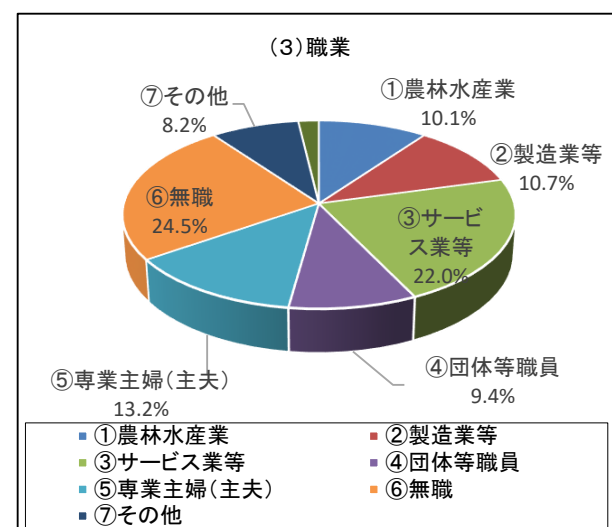
(2)年齢

	合計	男性	女性	無回答
①20代	8	5	3	0
②30代	21	8	12	1
③40代	19	12	7	0
④50代	32	9	23	0
⑤60代	36	16	20	0
⑥70代以上	43	25	18	0
計	159	75	83	1



(3)職業

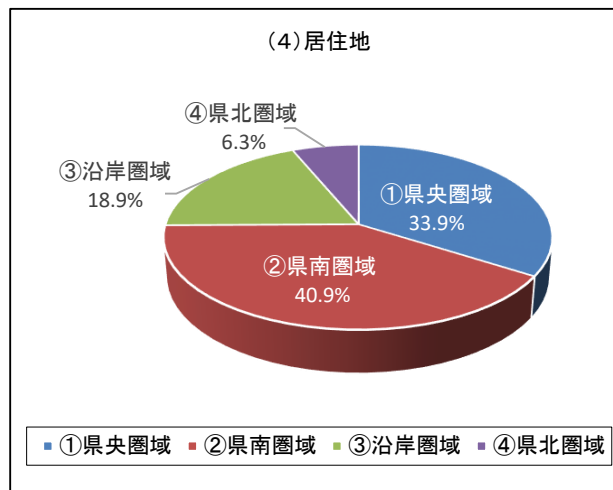
	合計	男性	女性	無回答
①農林水産業	16	11	5	0
②製造業等	17	11	6	0
③サービス業等	35	18	16	1
④団体等職員	15	7	8	0
⑤専業主婦(主夫)	21	0	21	0
⑥無職	39	23	16	0
⑦その他	13	4	9	0
無回答	3	1	2	0
計	159	75	83	1



※「その他」の内訳: 学生、パート、自営業 等

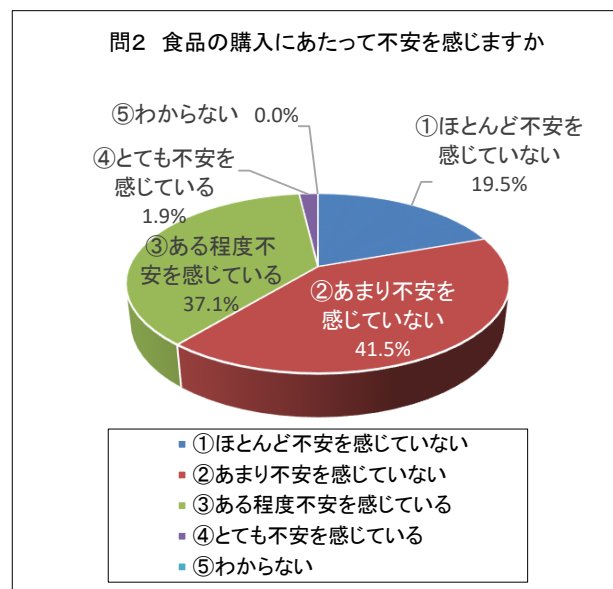
(4)居住地

①県央圏域	54
②県南圏域	65
③沿岸圏域	30
④県北圏域	10
計	159



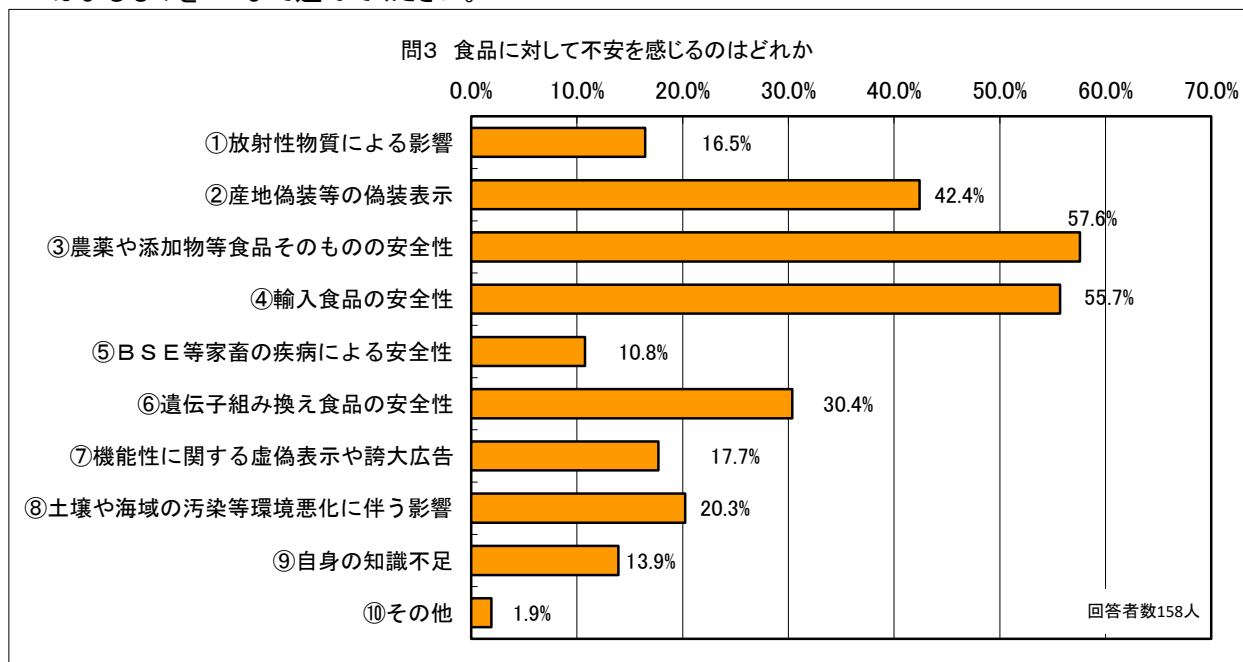
問2 あなたは、普段、食品の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	31
②あまり不安を感じていない	66
③ある程度不安を感じている	59
④とても不安を感じている	3
⑤わからない	0
計	159



食品購入に当たって不安を感じる人の割合は39.0%であり、不安を感じない人の61.0%を下回っている。また、前回(令和5年3月調査。以下同じ)の44.6%から減少している。

問3 あなたが食品に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

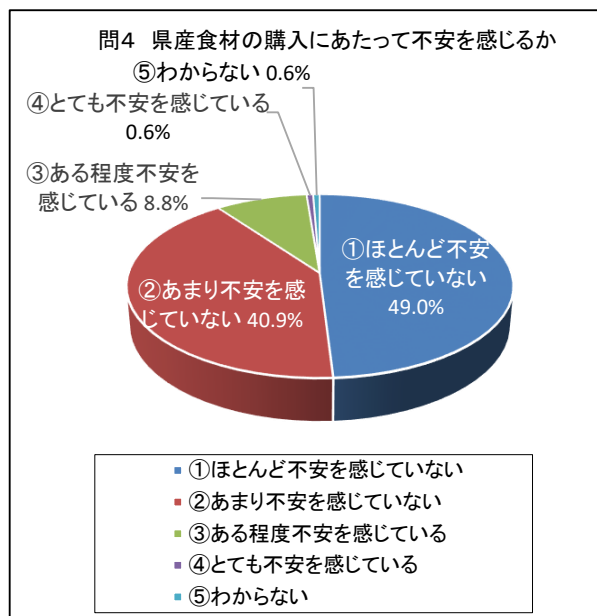


※「その他」の主なもの: 栄養バランス、価格、内容量減の実質値上げ、適正価格かどうか

不安を感じる理由は、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(57.6%、前回65.7%)」が最も多く、次いで「④輸入食品の安全性(55.7%、前回59.3%)」、「②産地偽装等の偽装表示(42.4%、前回41.3%)」の順に多かった。
 なお、「①放射線物質による影響」は16.5%と、前回(15.7%)よりも増加している。

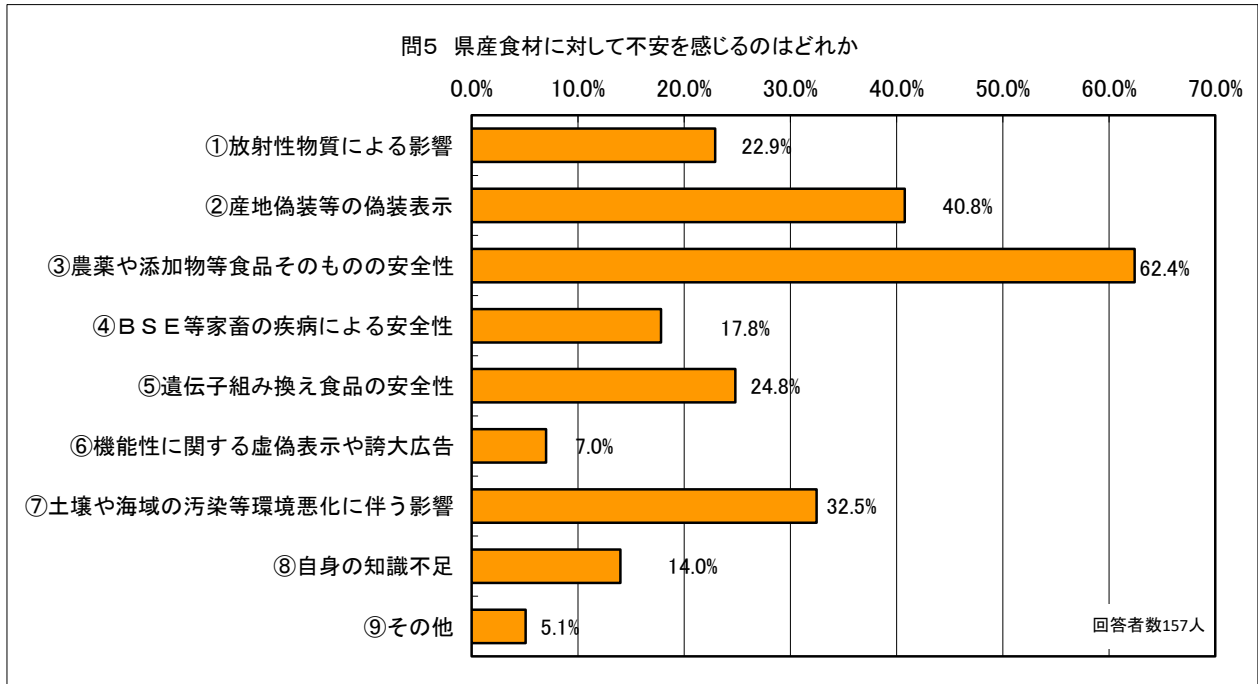
問4 あなたは、普段、県産食材の購入に当たって不安を感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①ほとんど不安を感じていない	78
②あまり不安を感じていない	65
③ある程度不安を感じている	14
④とても不安を感じている	1
⑤わからない	1
計	159



県産食材の購入に当たって不安を感じている人は9.4%(前回12.6%)となっており、不安を感じない人の89.9%(前回87.4%)を大幅に下回っている。

問5 あなたが県産食材に対して不安を感じているのは(又は不安を感じるとすれば)、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

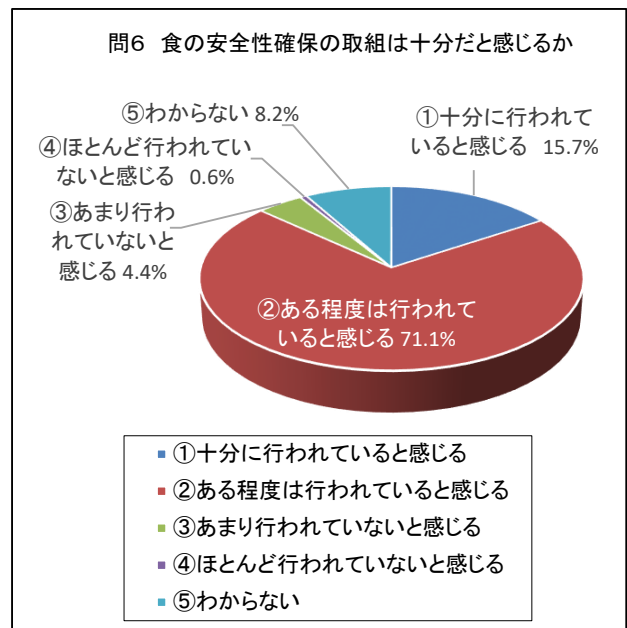


※「その他」の主なもの: 売れ残ったものはどうなるか、衛生面、後継者問題による生産者減少、あまり不安は感じない 等

県産食材の購入に不安を感じる理由は、「③農薬や添加物等食品そのものの安全性(62.4%、前回61.7%)」が前回調査と同様に最も多く、次いで「②産地偽装等の偽装表示(40.8%、前回37.0%)」、「⑦土壌や海域の汚染等環境悪化に伴う影響(32.5%、前回39.5%)」、の順に多かった。

問6 あなたは、県内の食品関連事業者(農林水産物の生産者や食品を取り扱う事業者)の食の安全性確保の取組が十分に行われていると感じていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

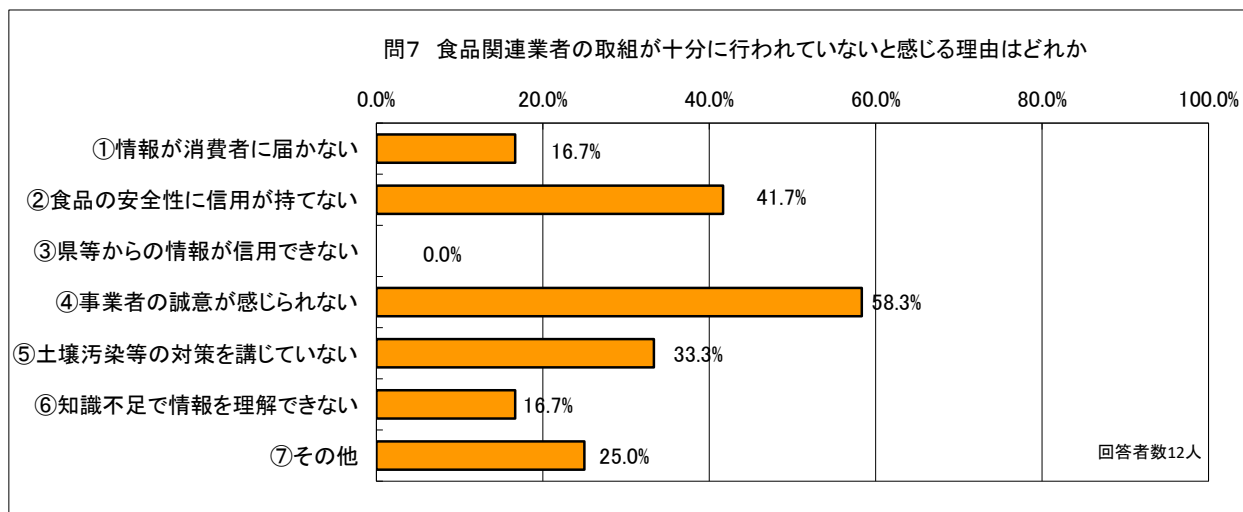
①十分に行われていると感じる	25
②ある程度は行われていると感じる	113
③あまり行われていないと感じる	7
④ほとんど行われていないと感じる	1
⑤わからない	13
計	159



安全性確保の取組が行われていると感じる人の割合は、86.8%(前回78.9%)となっており、県内の食品関連事業者の取組については、概ね理解されている結果となった。

問7 問6で③又は④を選んだ方にお聞きします。

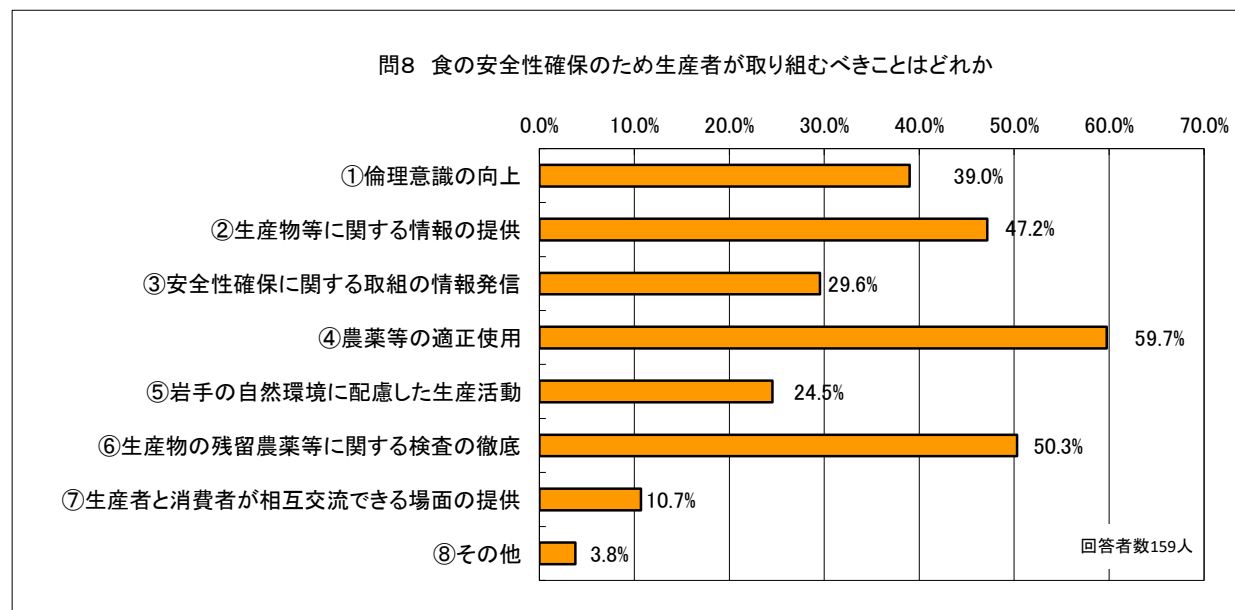
あなたが県内の食品関連事業者の取組が十分に行われていないと感じる理由は、次のうちどれですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの: 検査まで人手を使っていないのではないか、あるスーパーで賞味期限切れの飲料を安く売っていて驚いた 等

安全性確保の取組が十分ではない理由は、「④事業者の誠意が感じられない(58.3%、前回30.0%)」が最も多く、次いで「②食品の安全性に信用が持てない(41.7%、前回70.0%)」、「⑤土壌汚染等の対策を講じていない(33.3%、前回40.0%)」の順に多かった。

問8 あなたは、県内の生産者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは、次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



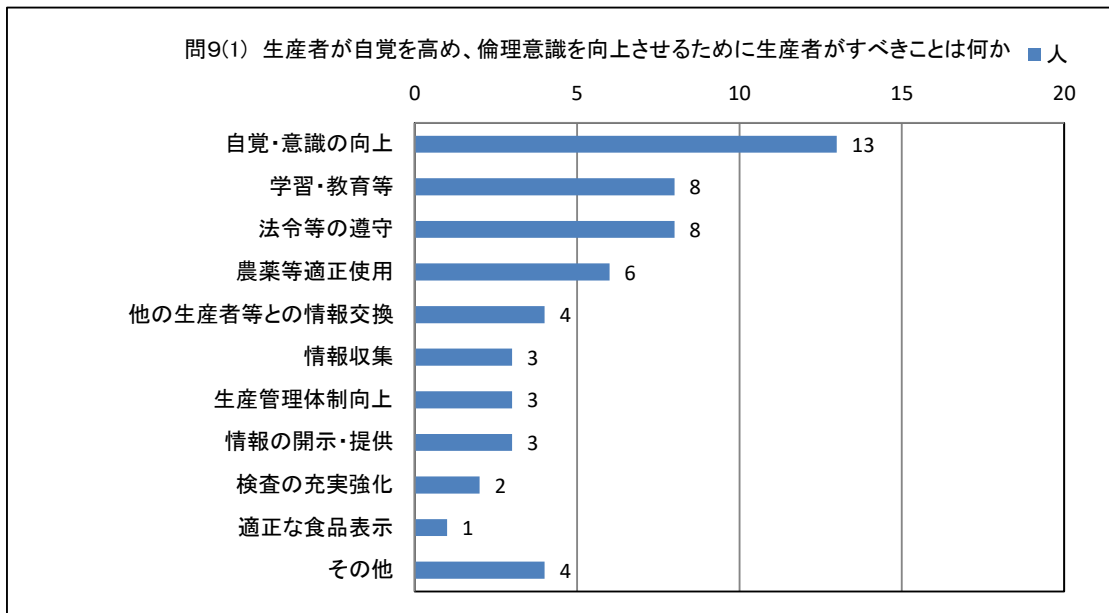
※「その他」の主なもの: ハサップの取得、製品品質の向上、知識の取得及び情報収集、安定した働き手の確保 等

県民が求める生産者の取組は、「④農薬等の適正使用(59.7%、前回58.6%)」が最も多く、次いで「⑥生産物の残留農薬等に関する検査の徹底(50.3%、前回43.1%)」、「②生産物等に関する情報の提供(47.2%、前回49.4%)」の順に多かった。

問9 問8で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きします。

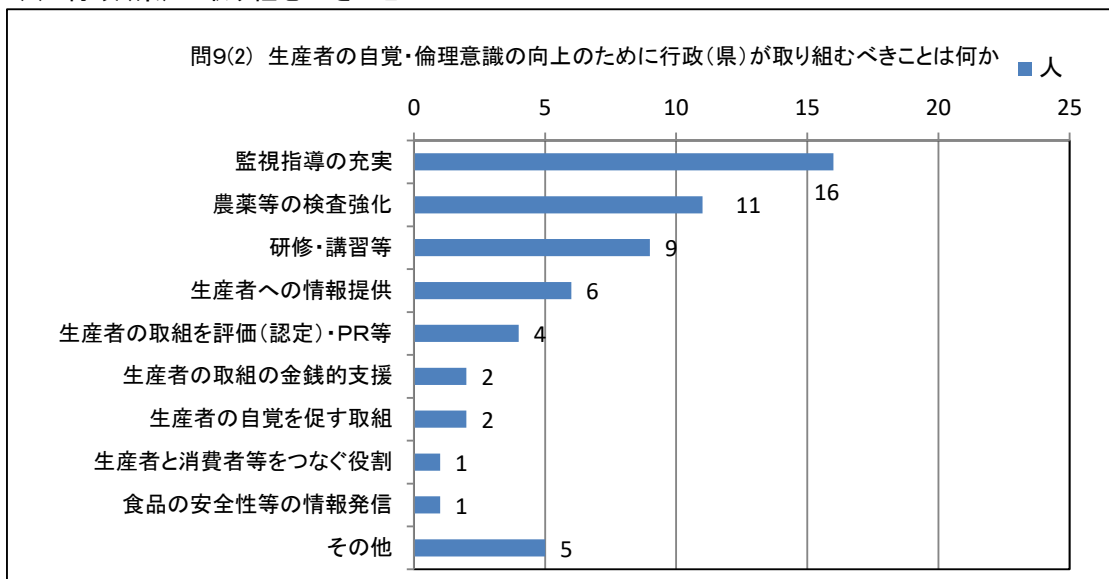
あなたは、生産者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思えますか。(自由記載)

(1) 生産者がすべきこと



※「その他」の主なもの:官民連携で知恵を出す、見た目の良し悪しではなく健康に良いもの売ってほしい等

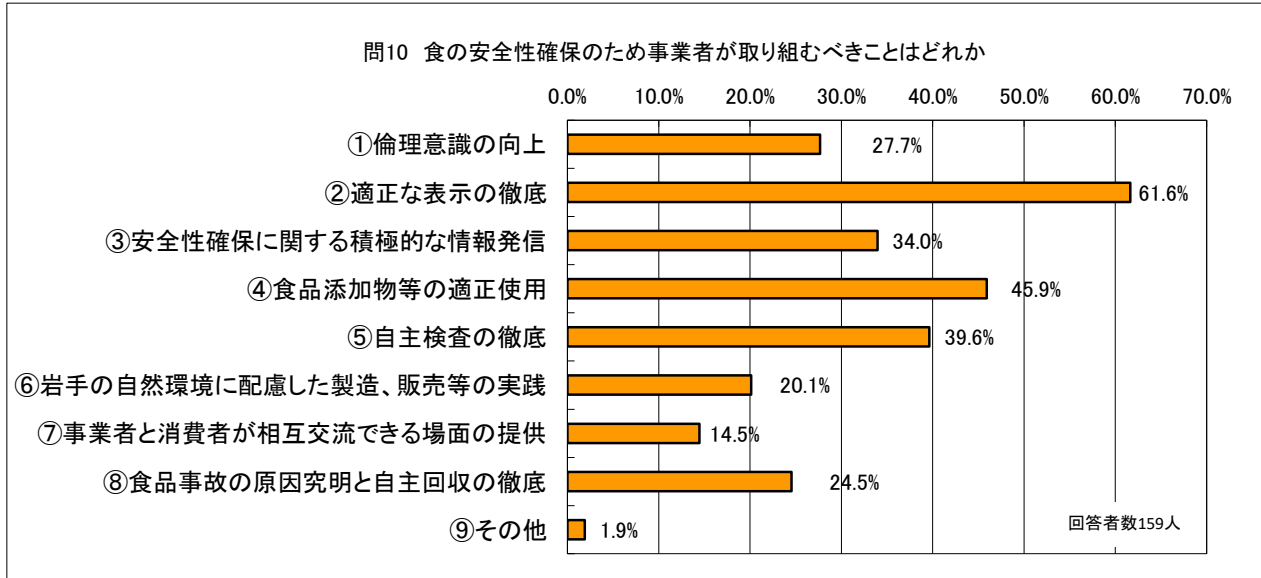
(2) 行政(県)が取り組むべきこと



※「その他」の主なもの:環境に配慮した有機肥料の推進 等

生産者が取り組むべきこととして、「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、生産者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関することが最も多く(13人)、行政(県)が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(16人)が最も多かった。

問10 あなたは、食品の製造、販売等を行う事業者が食の安全性確保のために特に取り組むべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

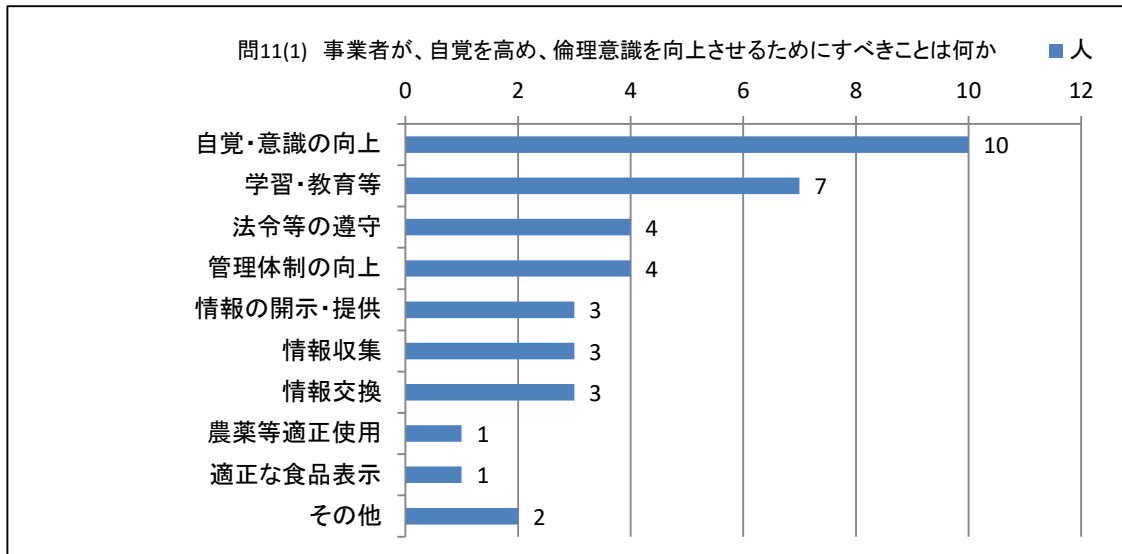


県民が求める事業者の取組は、「②適正な表示の徹底(61.6%、前回53.7%)」が最も多く、次いで「④食品添加物等の適正使用(45.9%、前回58.3%)」、「⑤自主検査の徹底(39.6%、前回22.9%)」の順に多かった。

問11 問10で①(倫理意識の向上)を選んだ方にお聞きます。

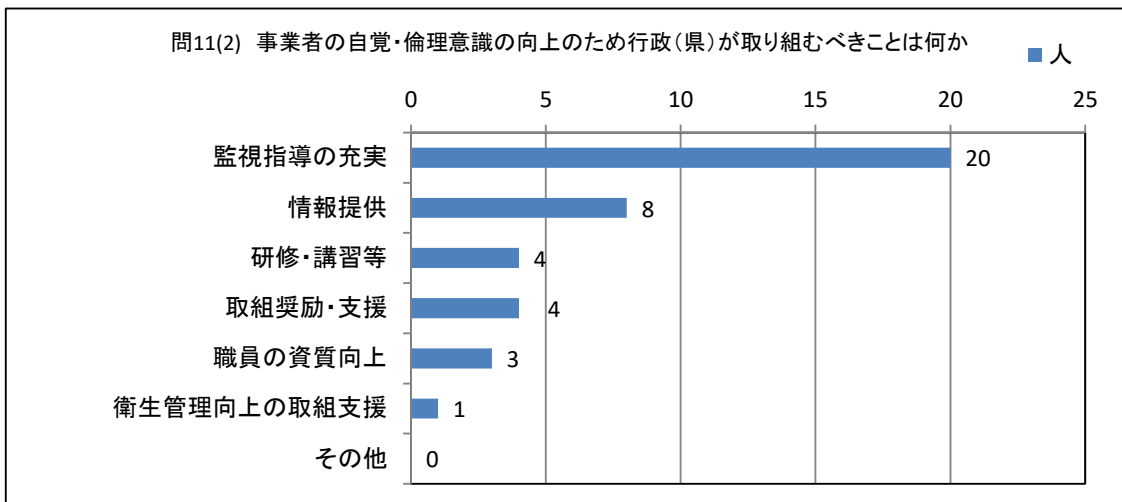
あなたは、製造、販売等の事業者が自覚を高め、倫理意識を向上させるために必要なこと(具体的にすべきこと)及び行政(県)が取り組むべきことは、何だと思いませんか。(自由記載)

(1) 事業者がすべきこと



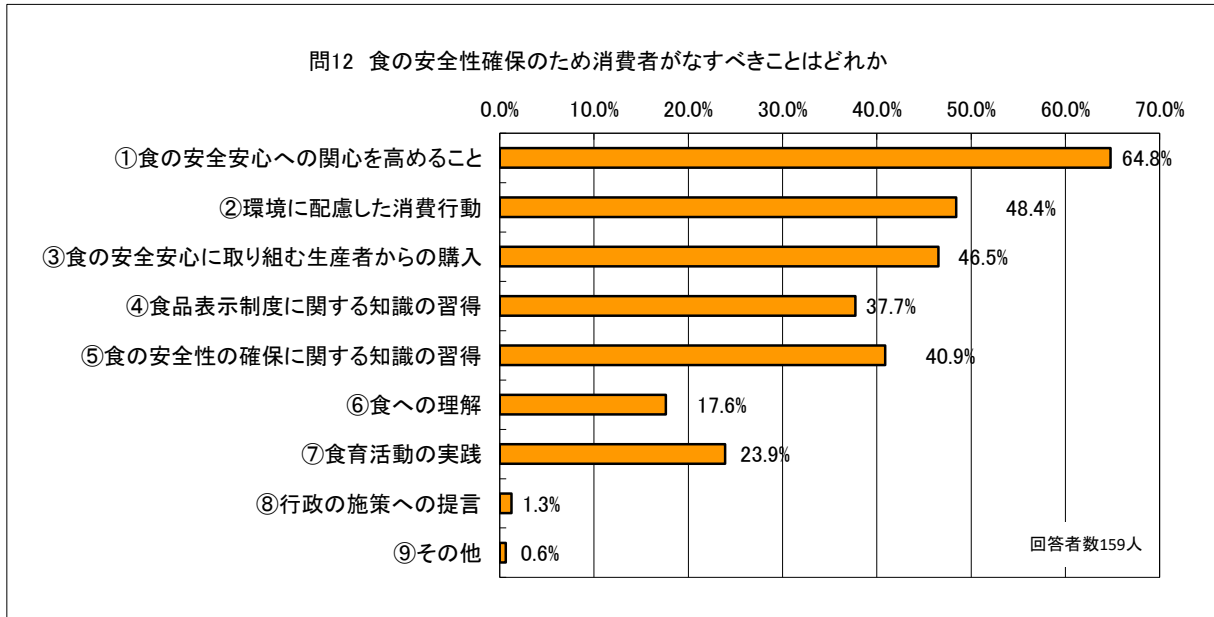
※「その他」の主なもの:簡易包装や容器持参者への割引

(2) 行政(県)が取り組むべきこと



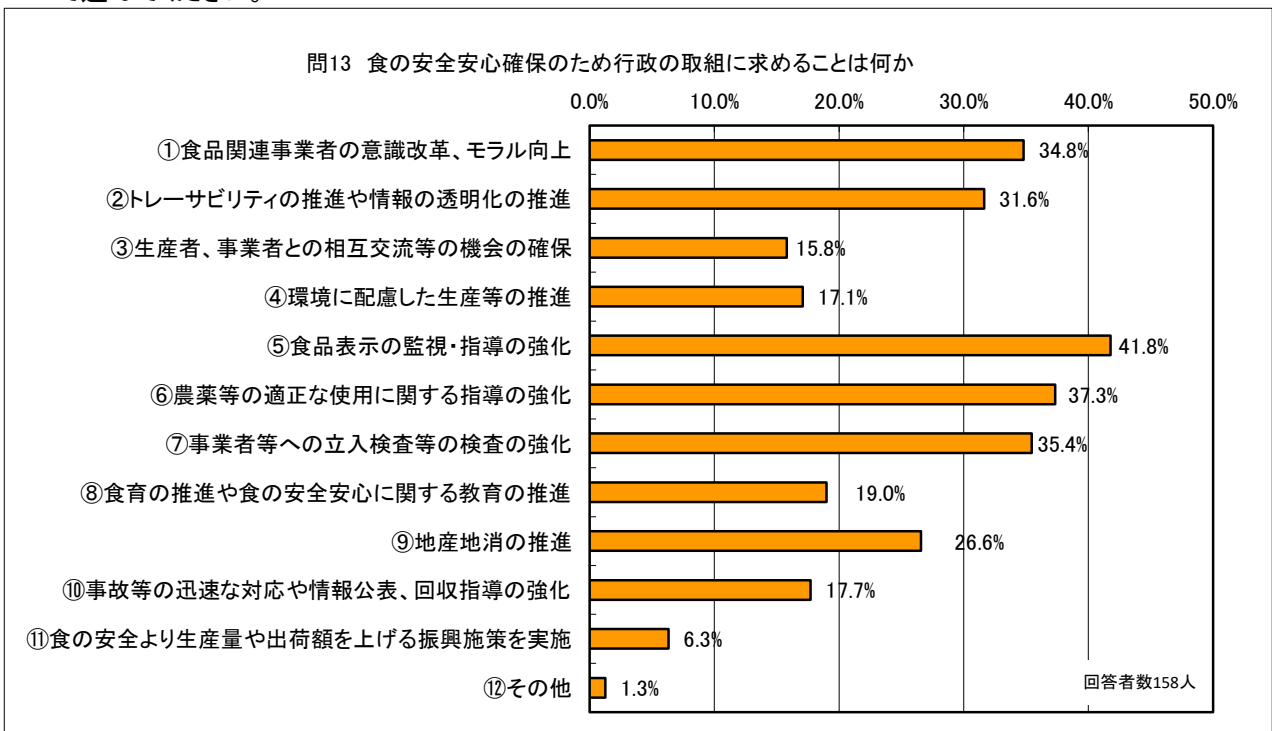
事業者が取り組むべきこととして「倫理意識の向上」を選んだ人が、そのために必要だと思うこと(自由記載)について挙げたことを分類すると、事業者がすべきこととしては、自覚・意識の向上に関すること(10人)が多く、行政が取り組むべきこととしては、監視指導の充実に関すること(20人)が多かった。

問12 あなたは、食の安全安心の確保のため、消費者がなすべきことは次のうちどれだと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



消費者がなすべき取組としては、「①食の安全安心への関心を高めること」(64.8%、前回70.1%)が最も多く、次いで「②環境に配慮した消費行動(48.4%、前回44.8%)」、「③食の安全安心に取り組む生産者からの購入(46.5%、前回58.0%)」の順に多かった。

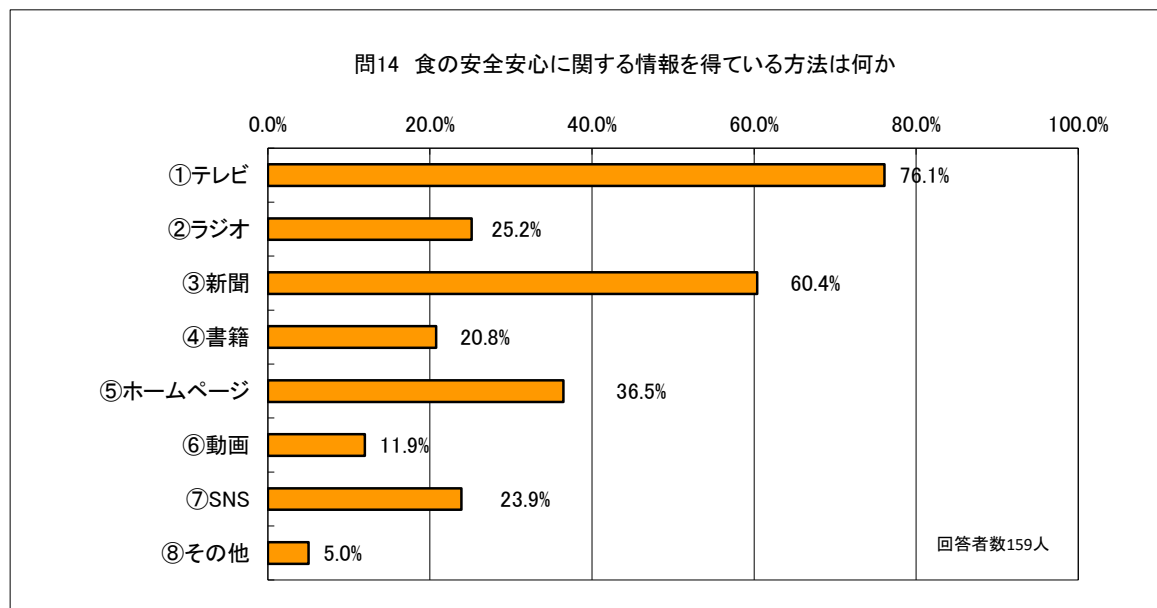
問13 あなたが食の安全安心の確保のため、行政の取組に求めることは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:信頼できる情報の提供、昨今の値上がりによる商品のランクダウン(安い資材、安い調味料への変更による劣化)を防ぐための補助金

行政の取組に求めることは、「⑤食品表示の監視・指導の強化(41.8%、前回40.0%)」が最も多く、次いで、「⑥農薬等の適正な使用に関する指導の強化(37.3%、前回40.6%)」、「⑦事業者等への立入検査等の検査の強化(35.4%、前回35.4%)」の順に多かった。

問14 あなたが日頃、食の安全安心に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。

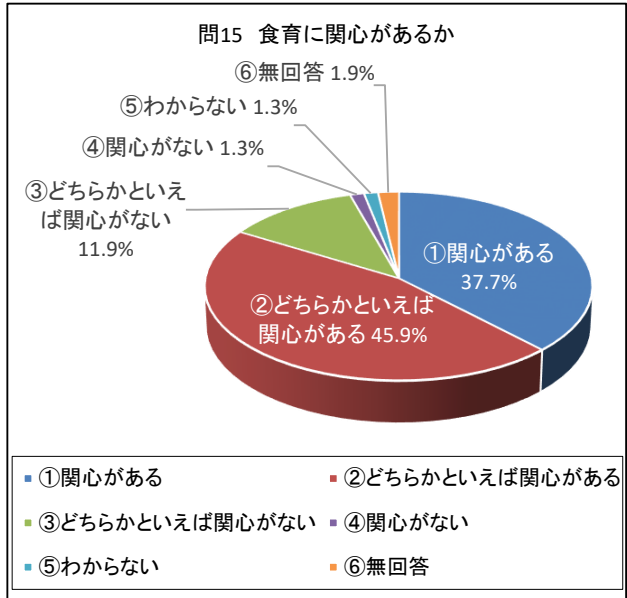


※「その他」の主なもの：JAや普及センター指導会、生産者との会話、市やJA広報、婦人会活動、スーパー店頭等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(76.1%、前回81.0%)」が最も多く、次いで「③新聞(60.4%、前回66.7%)」、「⑤ホームページ(36.5%、前回34.5%)」の順に多かった。

問15 あなたは、食育に関心がありますか。あてはまるものを1つ選んでください。

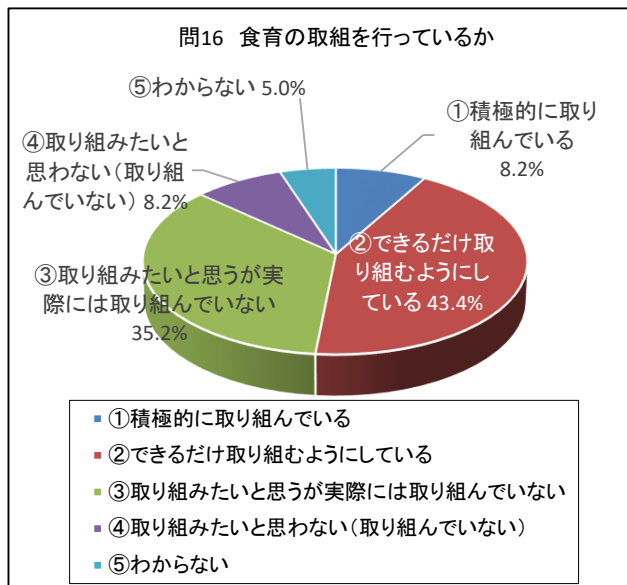
①関心がある	60
②どちらかといえば関心がある	73
③どちらかといえば関心がない	19
④関心がない	2
⑤わからない	2
⑥無回答	3
計	159



食育に関心がある人は83.6%（前回86.3%）であり、ほとんどの人が食育に関心を持っている結果となった。

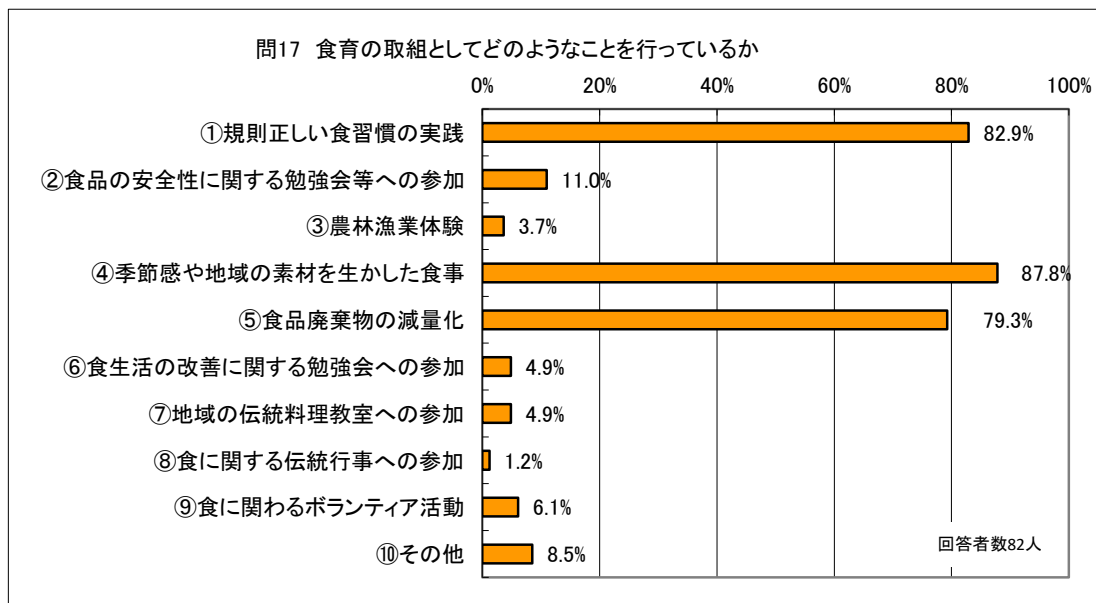
問16 あなたは、食育の取組を行っていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組んでいる	13
②できるだけ取り組むようにしている	69
③取り組みたいと思っているが、実際には取り組んでいない	56
④取り組みたいと思っていないし、取り組んでもいない	13
⑤わからない	8
計	159



食育の取組を行っている人の割合は51.6%（前回54.3%）である。また、取り組みたいと思っているが実際には取り組んでいない人が35.2%（前回34.9%）であり、取組をしやすい環境づくりや場の提供を推進することで、食育の取組の拡大が期待できる。

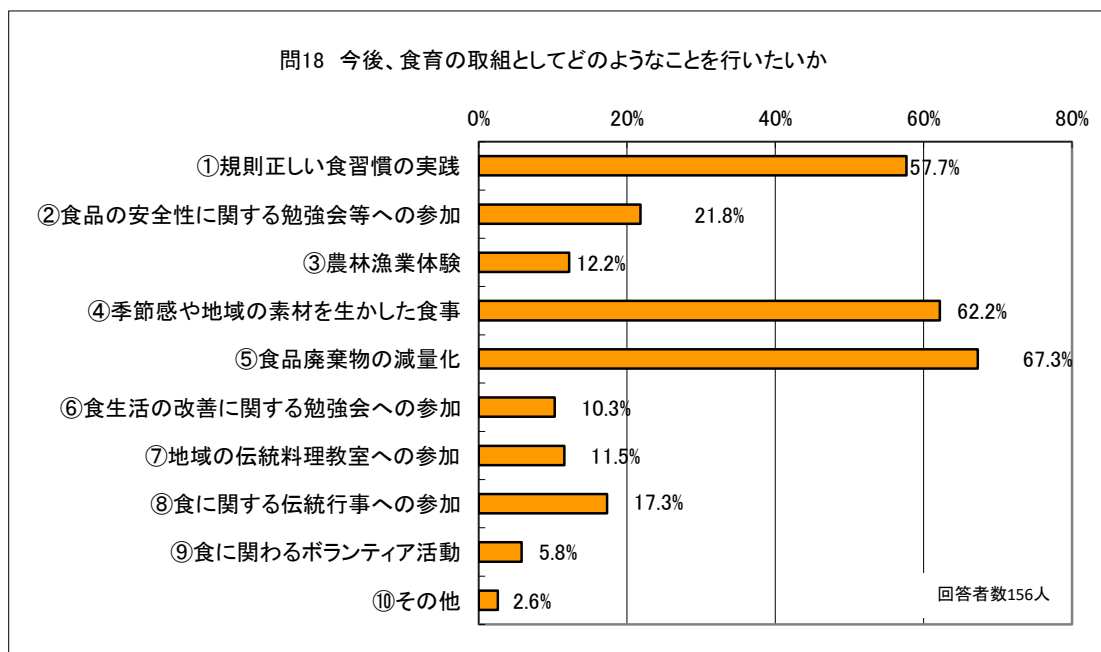
問17 問16で①又は②を選んだ方にお聞きします。
食育の取組としてどのようなことを行っていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの:子どもへの情報伝達、子どもと一緒に調理する、インターネットを利用した情報収集、地域の伝統料理を子ども達と食べる、産直での地域食材の購入 等

食育の取組として行っていることは、「④季節感や地域の食材を生かした食事(87.8%、前回78.9%)」が最も多く、次いで「①規則正しい食習慣の実践(82.9%、前回78.9%)」、「⑤食品廃棄物の減量化(79.3%、前回75.8%)」の順に多かった。

問18 あなたは、今後、食育の取組としてどのようなことを行いたいと思いますか。あてはまるものを3つまで選んでください。

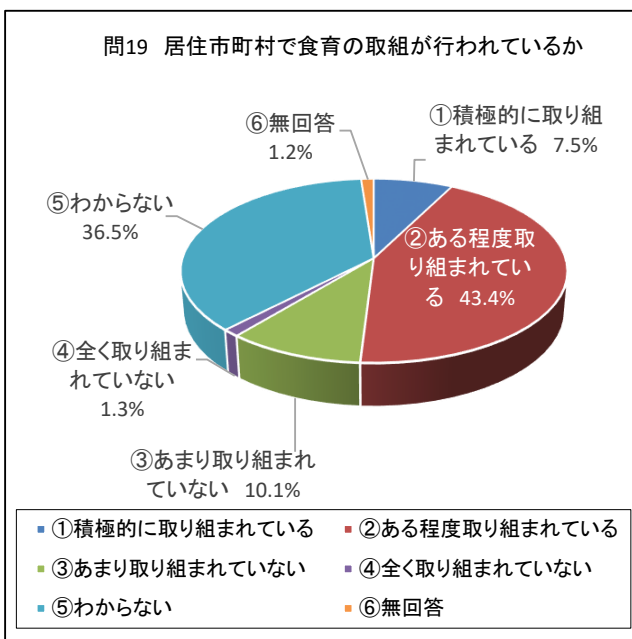


※「その他」の主なもの:地域の伝統料理を子どもたちに伝承する 等

今後、食育の取組として行いたいことは、「⑤食品廃棄物の減量化(67.3%、前回55.6%)」が最も多く、次いで「④季節感や地域の素材を生かした食事(62.2%、前回59.6%)」、「①規則正しい食習慣の実践(57.7%、前回52.6%)」の順に多かった。

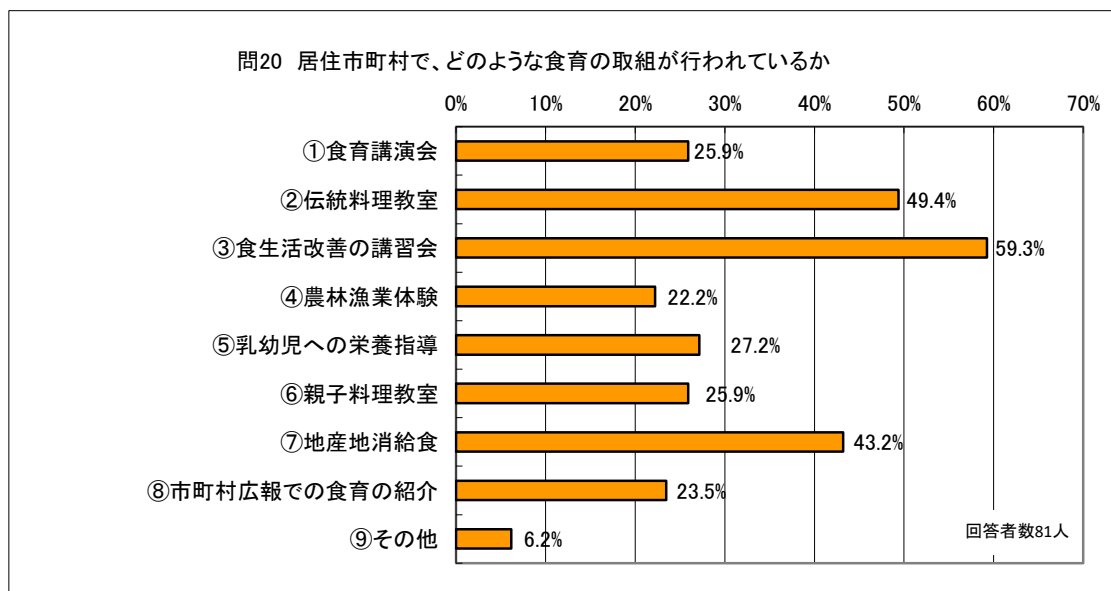
問19 あなたのお住まいの市町村では、食育の取組が行われていますか。あてはまるものを1つ選んでください。

①積極的に取り組まれている	12
②ある程度取り組まれている	69
③あまり取り組まれていない	16
④全く取り組まれていない	2
⑤わからない	58
⑥無回答	2
計	159



居住している市町村で食育の取組が行われているとした割合は50.9%（前回53.7%）と前回より減少した。また、取組の有無が分からないという回答は36.5%（前回34.3%）と前回より増加した。

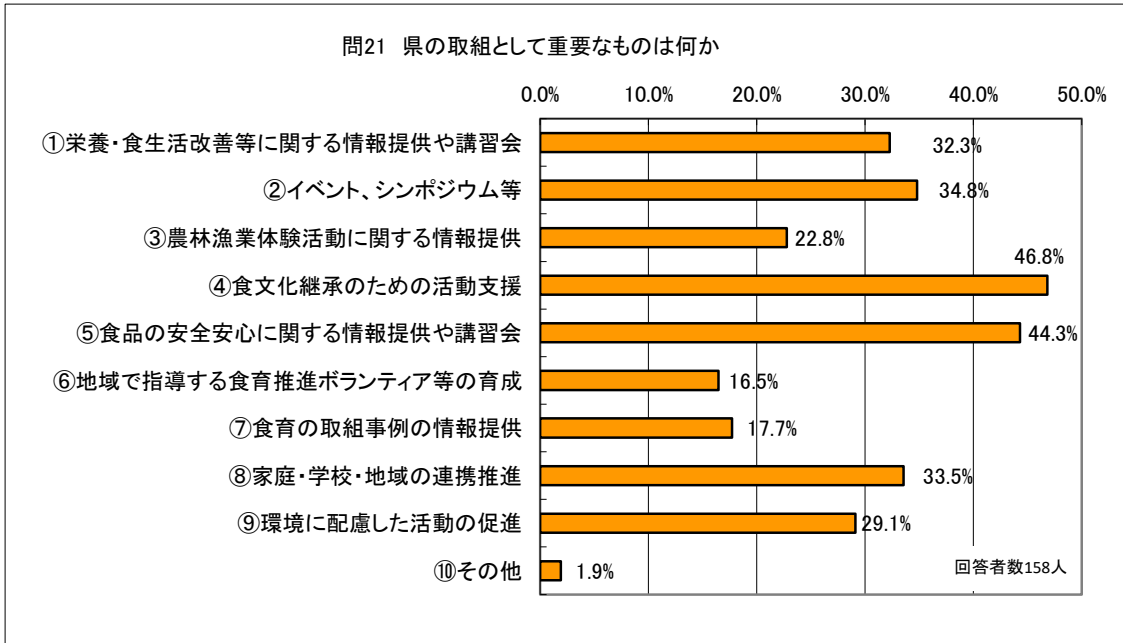
問20 問19で①又は②を選んだ方にお聞きます。
あなたのお住まいの市町村では、どのような食育の取組が行われていますか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：レシピの公開、小学校の給食での食育指導 等

居住市町村の食育の取組内容は「③食生活改善の講習会(59.3%、前回54.3%)」が最も多く、次いで「②伝統料理教室(49.4%、前回43.6%)」、「⑦地産地消給食(43.2%、前回43.6%)」の順に多かった。

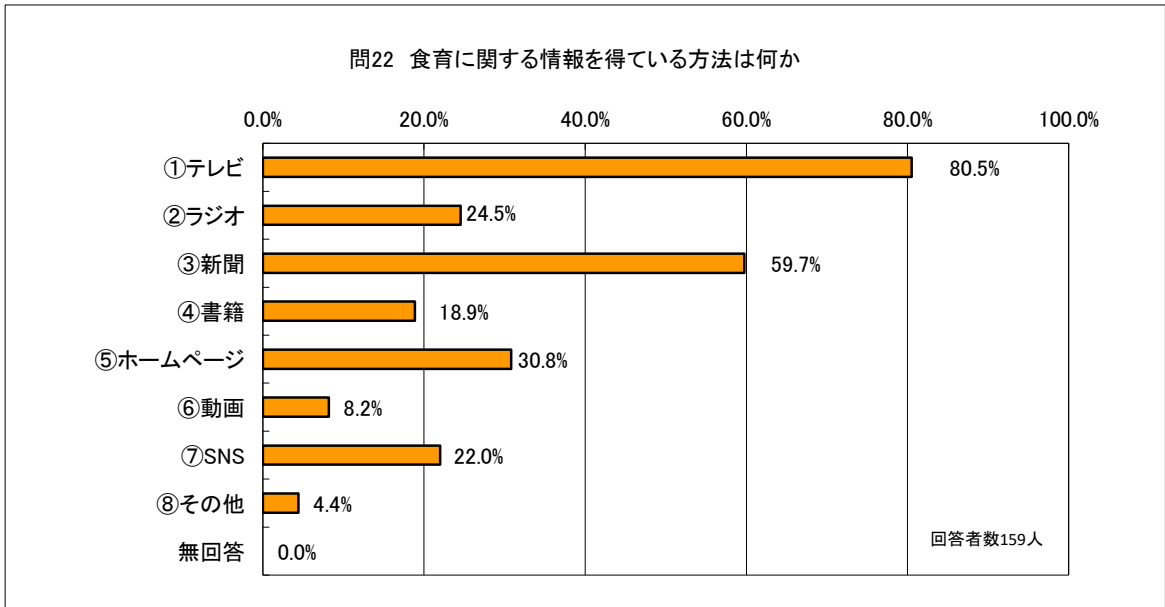
問21 食育を進めるための「県の取組」として、重要だと思うものは何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：メディア露出やイベント開催による地産地消の推進に向けた産直施設の活性化、食育に関するイベント情報のPR 等

県の取組として重要なものは、「④食文化継承のための活動支援(46.8%、前回49.7%)」が最も多く、次いで「⑤食品の安全安心に関する情報提供や講習会(44.3%、前回33.7%)」、「②イベント、シンポジウム等(34.8%、前回29.7%)」の順に多かった。

問22 あなたが日頃、食育に関する情報を得ている方法は何ですか。あてはまるものを3つまで選んでください。



※「その他」の主なもの：市やJAなどの広報誌、集会 等

食の安全安心に関する情報を得ている方法は、「①テレビ(80.5%、前回75.9%)」が最も多く、次いで「③新聞(59.7%、前回64.4%)」、「⑤ホームページ(30.8%、前回33.3%)」の順に多かった。

問23 食の安全安心、食育について、日頃感じていることがあれば御自由にお書きください。

1	生産者の事を考え、食べ物を大切にすることを重要だと思います。
2	食の安全安心を掲げてオーガニック食材が至高のような言い方をし、さも農薬の使用が悪いことのように言う人間を黙らせたい。慣行使用の農薬が悪かったらとくに人類滅んでるよね。
3	「食育が大切だ」とよく耳にするが、充分にその活動がなされていて、私的には食育で困ったことはない。すばらしいことだと思う。
4	食の安全は、家庭で育むものですが、学校(保育所)の食育指導のほか地域でも話題とし、みんなで取り組むことが大切だと思います。食育を地域づくり、まちづくりに繋げて行けると思います。
5	食育から生産者、販売事業者への意識を変えること倫理感までもを変えて行けると思います。
6	地産消費でおいしく食する家族の会話
7	味や風味を大切にしながら、本質的な食品の安全を講習会などで伝えて欲しいものです。
8	食物アレルギーの子を育てたが、食べられないものをちゃんと排除するのは難しかった。アレルギーは個人差が激しいので、表示の仕方が難しいのは仕方がないが、誰でも必要な情報が得られる表示になって欲しい。
9	食の安全に関する様々な情報があり、どの情報がどのくらい正しいのか判断できなくて困る。
10	今、ほとんどの食材がスーパー等からの購入物になってしまい、自家生産物が少なくなりました。農作物にまで工業製品と同じく均等品質、出来具合を求めている。そのため、採れた農作物のうち市場に出せなくなり処分している農作物が多いと聞く。消費者にも農作物は工業製品ではなく一個一個作っていることを知ってもらいたい。
11	食品中の残留農薬が心配。添加物は記載してあるので、しっかりチェックして購入する様にしている。国でも添加物をもっと厳しくしてほしい。
12	子どもたちの食材魚など(本体そのもの)とのふれあいが少なくなっている
13	市販の食品の原材料を見ると、添加物が使われていない物を探す方が大変です。
14	15年前に何を食べたかによって、体の不調や疾病は現われるといえます。なので、子供を産み、育てる女性には特に中学校の時には「食」に関しての基礎知識が必要と感じます。これを考えると、親から食育が必要で、自分が日頃どんな食事をしていくかで自分自身や子供の健康への意識も高まると思います。
15	岩手には、ふんだんな野菜や魚や肉があるので、もっと地産地消を進めても良いのではないのでしょうか？
16	SNS等でさまざまな情報が流れているが正しい情報をリサーチするのが難しい。
17	今はたくさんのファーストフードやデリバリーなどの出来合いのものを口にする機会が多く、材料や添加物など消費者として注意してもしきれない。体の動く限り家庭菜園で作った野菜等、自分の目の届く範囲の材料を使って自炊。孫たちと会えるときは伝統料理など一緒に作りながら自分の食べ物に関心をもってもらえるよう努めています。
18	西和賀町学校保健集会(保育所児～学校での食に関する集会)に参加し、今回は畑での野菜づくりを実施(保育所児)、学校給食についての栄養士の講演を(保育所保護者～各大人団体の方々)一同で聞いたことにより、町全体で食育の輪が広がることを願いました。
19	手間をかけずに食べられる便利な食品が多くあるが、素材から作ってきた食事のおいしさを感じている。また、子供にも作り立ての食事のおいしさや安全を知ってもらい、生活に生かしてもらえるよう話すなどの食育にあたっている。
20	忙しさのあまり、便利だけを強調している食品の販売等が目につくが、栄養や食事の良しあしが体にもたらず影響などをきちんと考える大切さを次世代にも伝えていきたいと思っている。地域や行政でも、地域に根差した食の歴史や郷土料理なども無くさない取り組みを大切にし、バックアップしてほしい。
21	今回の趣旨から外れているコメントかもしれませんが、学校給食が無償化となる流れで進んでいますが、物価や燃料の高騰により予算内で提供できるメニュー内容や品数が制限されたり、安全な食材の確保より仕入価格の安売りが優先されなければいいなと思います(出所不明な怪しいものが紛れ込まないように)。また、私が住む金ヶ崎町は学校給食のメニューがInstagramで公開されていますが、正直貧相な内容で子どもたちが可哀そうになる時があります。もちろん食の安全安心や食育は大切ですが、日頃から子どもたちに充分な量や種類(一品増やす)を提供することで発育成長を促し、それが未来の優秀な頭脳やスポーツ選手を生み出すことにつながるのではないのでしょうか。

22	今後は経営が厳しくなる生産者や食品関連事業者・飲食店が増えることが予想されます(前記のような燃料や資材高騰・インボイス導入等により)その際に、安易に安心安全を蔑ろにする商売を行う人が出てこないことを祈っています。
23	最近、指定野菜にブロッコリーが追加されましたが、県産の野菜などでも栄養満点の野菜や郷土料理などある程度知ってはいるものの、どのようなものがあるのか改めて知りたくになりました。
24	普段の食に関して、意識的になるということが、リテラシーを高めることにつながるのではないのでしょうか。自身が口にする素材がどのような味で、どのような調理がされていて、どのような味付けをしているのか、ということの解像度を高めていくなかで、自然と生産者を調べたり、他人と対話したりするようになる方もいると感じます。三國シェフが社会貢献でされている学校での味覚に関しての出張授業などは、素晴らしい取り組みだと思います。
25	魚、肉等外国産の製品が多くなっている
26	漁業体験や郷土料理の講習会のボランティアをしているが、4年くらいコロナ禍で行なうことが出来ずにいた。これからは学校、地域と連携して子供達に伝えていけたらと思う。
27	野菜は産直で購入したり、地元の農家さんから頂いたりしているが、誰が作ったのかが分かると、とても安心するし、子供たちの口に入るものは、なるべく地元や岩手県産の物を使うようにしている。地産地消だと、新鮮なものが買えるので美味しいと感じる。
28	生産者側の立場からすると、食の安心安全が地域ブランドにつながると考えているので、産地偽装や表示偽装など消費者の信頼を損なうことがあってはならないと思う。
29	国産、県産のものが安全でおいしく、子どもの食育にもなることは分っていても値段等の問題で安い方や外国産を選びがちになる。安くいいものが買えたら、もっと国産、県産のものを取り入れていきたい。
30	安心安全があたりまえと思っているが、テレビで中国の加工食品の現場が放送されてびっくりすることがある。地産地消、身土不二ということを考えている。生産者、販売する人たちの責任を信頼して余生を送りたいものです。
31	産地偽装や人体に悪い薬剤の使用など、不安に感じる事がある
32	悲しい事に、岩手県でも産地偽装がありました。信頼して購入している消費者を裏切る行為は、絶対に止めてほしいです。担当する行政機関は、常にアンテナを張り巡らしてほしいと思います。県産の物は、それだけで安心感を持ってしまい、疑いもなく、良いものと信じて購入しています。生産者の方々も、販売される機関でも、自覚を持って真摯に取り組んで頂きたいです。
33	適正な表示がされていると信じて、食品を購入しています。一番守ってほしい事です。
34	テレビでこの食品がいいと紹介されるとスーパーの食品売り場のその商品がなくなる。自身も含めて世の中の皆が情報に飢えていて流されやすいと思う。正しい情報を得て日常的に考えて食に取り組めるようできるとありがたい。
35	東京のデパートの食品売り場で八幡平市産の生シイタケが陳列してあった。安全安心な食材の販路拡大も更に努めていただきたい。行政も支援してほしい。
36	産直などで漬物を販売するときは、法律が変わり営業許可が必要になりました。このことで生産者が減り、おいしい伝統な漬物が食べられなくなってしまうことが心配です。
37	食品添加物の安全性がとても心配です。
38	日々、特段意識する人は多くないと思う。ゆえに、県の取り組み・啓発が大切であり、消費者に提供する1次・2次・3次産業業者の、倫理観・姿勢、安全に対する学習をキチンとしていただければと思う。
39	もう少し情報の透明性があっても良いかと思います。
40	食の安全、安心については事業者や行政もちろんですが、県民一人一人の意識が大事だと思います。そこから自然と相互の関係性が生まれ安全に安心して暮らせる社会につながる気がします。自らの反省の踏まえてです…。
41	地産地消を当たり前に行える環境になればいいと思う。地域のスーパーには、地元農家の野菜はあまり置かれてなくて、道の駅や産直などに行くと、地元野菜は置かれているが、お肉などその他の食材が高くなる。
42	岩手県産は安心安全と思い少々値段が高くても買うことも多々あります。信じたいと思いつつ、本当なのか、目の届かない所で何かされているのでは、なんて思ったり。だけど私は岩手県人を信じています。大変な苦勞ですが、良いものを作り頂き、お互いの関係に笑みがこぼれる食卓でありたい！
43	コロナで、皆で一緒に食べるような地域のイベントや教室が減ったが、コロナ対策をしつつ再開してほしい。もっと増やして欲しい。子どもと一緒に参加したい。例えば、米の苗植え、稲刈り、りんご狩り、郷土料理作りに参加したことがあるが、とても良かった。定員が少なく参加できなかったものもあるので、イベントも回数も定員も増やしてほしい。

44	食品ロスを減らすために、家庭、飲食店、スーパー、コンビニでもっともっと積極的な取り組みをしないと、自給率の低い日本は将来他国から侵略された時、兵糧攻めによって餓死者が続出すると思う。
45	今、県内でも子ども食堂の活動をされている団体がいてほんとにいいことだなと感じます。
46	日々、旬のものを無駄なく使いきるように購入したり、料理の工夫をしています。県のHPでも旬のものを使って野菜やお肉や魚などのレシピも公開していただけたらと思います。
47	朝食はとっていますが、簡単にパン等になっているので、インスタントのスープ、サラダ野菜をとるようにしている
48	虚偽表示、産地偽装すると倒産、廃業に！！(いろんな日本の産業で行われており国際的にも信頼を失い失望している)
49	なるべく信頼のできる県産のものを選びたいと思っています。
50	フードロス問題等、食に関する関心、興味は増えていると思うし、今後も続けていかなければならない。
51	内容量減の実質値上げをした場合は、その旨の表示を義務付ける
52	漁業体験など孫に体験させたいが参加料が高く、敷居が高く感じるので気軽に参加できるようにしてもらいたい。
53	日本にいる以上はある程度商品に信頼を持っているが、ふるさと納税の返礼品についてはミスがおきることから不信感を抱いている。
54	特に関心なく過ごしていましたが、これを機に食の安全や食育について考えていかなければと思いました。
55	岩手県独自の取組をJAや事業者と連携して、県外等へのPRをしてほしい。
56	多少値段は張っても、県産のものや最低限の添加物を使って作られた商品を買うようにしている。
57	やはり、ひとりひとりのモラルかな。あと、不正を見つけたら告発しやすい環境であるといいです。最近、実は不正が何十年にわたって行われていたとか聞くと、本当におかしいと思います。
58	食育とちょっと違うかもしれないけれど、あまり親が神経質に子供にコーラを飲むなど言っていると、大人になった時、反動でコーラをがぶのみしている人が、身近にいます。こんな大人になっちゃうんだなと思います。正しい知識が、必要ですね。
59	基本は、すべて生産者、販売者の良心の問題と、市町村県職員の岩手を良くするために働いているかどうかの、意識の問題だと思っています。はたして、市町村県職員の方々、給料分働いていると胸を張って言えますでしょうか？
60	日本の食糧自給率の低さに危機感を覚えているため、そこを向上するにはどうしたらよいか考えている。答えは出ず、自身が買い物する際は、国産、なるべく地産地消となる食材を選んでいる。価格が高い場合もあるが、適正価格であれば購入している。
61	食は命を養う大切なものなので生産者も消費者も感謝の気持ちで育てたり食べなければならぬと思います。感謝の気持ちを持たば偽装等もなくなり食べ残しも少なくなると考えます。
62	若いお母さんたちは、ほとんど働いている。忙しくて、家で食事を作るのも大変だと思う。スーパーのお惣菜でも良いかもしれないけれど、私たちが子どもの頃よりも、肥満の子どもを多く見かける。人の見た目をあれこれ言うのは今どき良くないかもしれないが、親の帰りが遅いことが一因になっていないだろうか。
63	特にない。(子どもが大きくなったので、食育が終わっていると思っている)
64	安全な県産食材を買おうとすると、価格が高い。とてもじゃないけど高くて日頃から購入する事なんて出来ません。安全なだけではイベント等を行ったところで消費の拡大要素にはならない。所得者層関係無く消費できる程の価格帯に下げ、消費を拡大させることが最大の課題ではないかと思っています。
65	商業施設での食育のイベント等があれば気軽に参加しやすいし、興味を持てると思う。動画やネットだといまいち伝わりにくいし、流し見してしまうので、足を止めて生産者や県または市の食育担当専門の方の生の声を聞けると楽しいと思う。

66	県外から転入してきた人間としては、岩手県の食材は手頃な価格でおいしいものが多いと感じる。この強みを他県や観光客等に十分に効果的に活かしているのかは、よく分からないと感じている。
67	食品の製造側による、産地偽装や賞味期限の偽装は論外であるが、食中毒等防止のための取組には十分注意を払ってもらいたい。
68	消費者側も、野菜等の外見重視、棚の奥から(消費期限の長いものから)商品を選ぶことなどを控える必要があると思う。消費者のこのような購入行動を行うから、生産者段階で廃棄される物や、販売店での廃棄や返品も多数生じている。流通・販売業者側は、品質(食する部分の味)等の観点に立ち、不揃いであっても、飲食店での調理・加工用や割安で一般消費者用として販売するなど、生産者と消費者の間の仲を取り持ってもらいたい。
69	値上がりするものばかりで、安全・安心と思っても、高いものには手が出なくなっている。安価でも安全、安心、おいしい食の提供を願う。
70	地産地消
71	食材の産地偽装が多い、該当事業者(生産者、問屋、販売者)への重罰、発覚しても繰り返し同様事例が多い。
72	食品ロスを減少させる(無くす)
73	20年程前、他市で保育補助と調理補助(保育園)の仕事を経験しました。その時、幼い子供達に安心安全な食材を通して旬な食材で行事食を作っておいしそうに食べる園児の顔を見てきました。家でも行ってきた季節の行事食が、今では娘から孫へつながっています。安心安全な食材で、食の意味を考えられるような時が続いて欲しいです。
74	野菜などは地域の無人販売等を利用し、特に栄養のバランスを考え、多く作りすぎないようにしています。
75	生産者でもあるので、農業はきちんとその通り使っている。岩手人は、その点は正直に守っているのではないかと信じている。
76	最近食品表示をよく見るのだけど色々わからないことがあるのでそれについての講習会などを開いてもらいたい。
77	食の安全について地産地消で旬な物を買いたいと思っている人は多いかと思うが、所得格差により買える人と買えない人がはっきりと分かれてしまっていると思うので、それを是正できる施策を作ってもらいたい。
78	栄養・食生活改善・食の安全・安心他講演会など行ってほしいと思います。
79	輸入食品が本当に安全なのか不安に思いながら購入しています。
80	山菜の放射性物質の情報をもっと発信してほしい。「HPにありますよ」ではなく、皆に教えるように動いてほしいです。
81	食育の講習会があったとしても、平日は参加できないので、土・日に開催してほしい。小学校での食育給食などはとてもありがたいです。
82	料理教室や食べ残しを減らす取り組みの教室など開いてほしい。生ごみ処理できるコンポストを支給するなど検討してほしい。
83	食の安全安心・食育については、40才から上の方々は気づいていると思う。また60才から上は、自分の体を守るため、大切さを感じていると思う。これをないがしろにしているというか、気づいていないのが、20代から30代。子育て真っ最中、一番子供の将来を考えている母親に気づきをあげるべきではないかと思う。精神的にも強い子は、体がきちんと育っていれば、心もすてきな人間になると思う。子育て中のお母さん、食が大切ですよ!!
84	産直等生産者の見える販売方法には安心して買い物ができる。
85	子どものうちから食育に関して学ぶ機会を増やしていけるとよいと思う。また、大人になってからも気軽に参加できる食育の場があるとよいと思う。(男性向けの料理教室等)
86	問17,18の選択肢に「食品廃棄物を減らしている」とあるが、そもそもスーパーなどに並ぶのはきれいな形の野菜や果物なので、ほかの少し見た目がわるいものやキズありのものも売るようにしたらいいと思った。岩手は、いろいろな野菜や果物が生産されているので、それらを使った料理のレシピを紹介してほしい。
87	現在は共働き・一人暮らしに合わせ、美味しい惣菜や弁当が充実しています。しかし、好きな物だけ食べる事で栄養が片寄ったり、孤食が増えないか不安を感じます。又、我が家の味が減ったり、野菜の選び方・保存方法等、食に関する知恵・知識を教わる機会が減る事にも淋しさを感じます。